

「之」

「之」

神代上

13

名之曰礮馭慮嶋

名けて礮馭慮嶋と曰う

14

故名之曰淡路洲

故、名けて淡路洲と曰う

15

宜汝往脩之

汝往きて脩すべし

因畫滄海而引舉之

因りて滄海を畫して引き舉ぐるときに

陽神後和之曰

陽神、後に和へて曰く

便載葦船而流之

便ち葦船に載せて流りてき

時天神以太占而ト合之

時に天神、太占を以てト合(ウラ)ふ

乃ト定時日而降之

乃ち時日をト定(ウラ)へて降す

陰神後和之曰

陰神、後に和へて曰く

16

指垂而探之

指し垂して探りしかば

則拔矛而喜之曰

則ち矛を抜きて喜びて曰はく

19

二神見而學之

二の神見して學びて

26

故載之於天磐櫂船而順風放棄

故、天磐櫂船に載せて、風の順に放ち棄つ

「之於」

固當遠適之於根國矣

固に當に遠く根國に適ね

「之於」

遂逐之

遂に逐ひき

32

我所生之國唯有朝霧而薰滿之哉

我が生める國、唯朝霧有りて薰り滿てるかな

伊弉諾尊恨之曰

伊弉諾尊恨みて曰はく

唯以一兒替我愛之妹者乎

唯一兒を以て、我が愛しき妹に替えつるかな

「我が愛しき妹なる者に替えつるかな」?

請勿視之

請う、な視ましそ

伊弉諾尊大驚之曰

伊弉諾尊、大きに驚きて曰はく

追留之

追ひて留めまつる

醜女亦以拔噉之

醜女亦以て抜き噉む

伊弉諾尊乃報之曰

伊弉諾尊、乃ち報へて曰はく

乃追悔之曰

乃ち追ひて悔いて曰はく

便濯之於中瀨也

便ち中瀬に濯ぎたまふ
「之於」

故伊弉諾尊問之曰
故、伊弉諾尊問ひて曰はく

伊弉諾尊惡之曰
伊弉諾尊惡みて曰はく

乃逐之
乃ち逐りき

35
乃舉一片之火而視之
乃ち一片之火舉して視す

36
便語之曰
便ち語りて曰はく

猶看之
猶看す

故伊弉冉尊恥恨之曰
故、伊弉冉尊、恥ぢ恨みて曰はく

而盟之曰
盟ひて曰はく

37
伊弉諾尊聞而善之
伊弉諾尊聞しめして善めたまふ

38
宜爾月夜見尊就候之
爾、月夜見尊、就きて候みよとのたまふ

貯之百机而饗之
百机に貯へて饗たてまつる
一つ目の「之」は句末の助詞？目的語の「これ」？

時天照大神怒甚之曰
時に天照大神、怒りますこと甚しくして曰はく

復遣天熊人往看之

復た天熊人を遣して往きて看しめたまふ

天熊人悉取持去而奉進之
天熊人、悉に取り持ち去きて奉進る

天照大神喜之曰
天照大神喜びて曰はく

則顯見蒼生可食而活之也
顯見しき蒼生の、食ひて活くべきものなりとのたまいて

39
勅許之
許すと勅ふ

便授之素戔鳴尊
便ち素戔鳴尊に授けたまふ
「之」は句末？

40
亦名去來之眞名井而食之
亦の名は去來之眞名井にて食す
訓読に問題あり。

因教之曰
因りて教へて曰はく

41
故素戔鳴尊持其瓊玉而到之於天上也
故、素戔鳴尊、其の瓊玉を持ちて天上に到つ
「之於」

42
則稱之曰
則ち稱して曰はく

故因名之曰勝速日天忍穗耳尊
故、因りて名けて、勝速日天忍穗耳尊と曰す

卽以日神所生三女神者
卽ち日神生まれませる三の女神を以ては
「三女神なる者を以て」？

44

是時天照大神聞之而曰
是の時に、天照大神、聞しめて曰さく

細開磐戸窺之
細に磐戸を開けて窺す

拔其手足之爪贖之
其の手足の爪を抜きて贖ふといふ

45
素戔鳴尊見之
素戔鳴尊見して

投入之殿内
殿の内に投げ入る
「之を殿内に投げ入る」？
『古典文学大系』では
投入之於殿内
殿の内に投げ入る
「之於」

故會八十萬神於天高市而問之
故、八十萬の神を天高市に會へて問はしむ

47
于時諸神憂之
時に、諸の神憂へて

則以神祝祝之
則ち以て神祝き祝きき

遂以神逐之理逐之
遂に以神逐の理を以て逐ふ

49
雨則流之、早則焦之
雨れば則ち流れぬ、早れば則ち焦けぬ

50
于時日神聞之曰
時に、日神聞しめて曰はく

乃細開磐戸而窺之
乃ち細に磐戸を開けて窺す

乃使天兒屋命、掌其解除之太諄辭而宣之焉
乃ち天兒屋命をして、掌其の解除(ハラヘ)の太諄辭を掌りて宣らしむ

遂同距之
遂に同に距ぐ

51
必欲奪之我國者歟
必ず欲奪之我國を奪はむとならむか
この「之」は何？

52
素戔鳴尊誓之曰
素戔鳴尊誓ひて曰はく

置之左掌
左の掌に置いて
この「之」は何？

置之右掌
右の掌に置いて
この「之」は何？

54
撫而哭之
撫でつつ哭く

而盛酒以待之也
酒を盛れしめて待ちたまふ

故割裂其尾視之
故、其の尾を割裂きて視せば

55
吾心清清之
吾が心清清し

因勅之曰
因りて勅して曰はく

57
素戔鳴尊乃教之曰
素戔鳴尊、乃ち教へて曰はく

59

素戔鳴尊拔劔斬之
素戔鳴尊、劔を抜きて斬りたまふ

割而視之
割きて視せば

62

素戔鳴尊欲幸奇稻田媛而乞之
素戔鳴尊、奇稻田媛を幸せむとして乞ひたまふ

將何以殺之
將に何以してか殺りたまはむ

釀毒酒以飲之
毒酒を釀みて飲ましむ

63

故諸神科以千座置戸而遂逐之
故、諸の神、科するに千座置戸を以て遂に逐ふ

卽擘而視之
卽ち擘きて視せば

64

若使吾兒所御之國不有浮寶者
若使(タトヒ)吾が兒の所御す國に、浮寶有らずは

乃拔鬚髯散之
乃ち鬚髯を抜きて散つ

乃稱之曰
乃ち稱して曰はく

遂入於根國者矣
遂に根國に入りましき

66

吾等所造之國豈謂善成之乎
吾等が所造(ツクレ)る國、豈善く成せりと謂はむ
や

蓋有之乎
蓋し有りや

如吾不在者
如し吾在らずは

67

乃驚而求之
乃ち驚きて求むるに

卽取置掌中而翫之

卽ち取りて掌中に置いて、翫びたまひしかば

于時高皇產靈尊聞之而曰
時に、高皇產靈尊、聞しめして曰はく

宜愛而養之
愛みて養せとのたまふ

「者」

神代上

32

愛也吾夫君言如此者

愛しき吾が夫君、此の如く言はば

愛也吾妹言如此者

愛しき吾が妹し、此の如く言はば

39

若然者將何以明爾之赤心也

若し然らば、將に何を以てか爾か赤き心を明さむ

如吾所生是女者

如し吾が所生(ウ)めらむ、是女ならば

40

若汝心明淨不有凌奪之意者

若し汝が心明淨くして、凌ぎ奪はむといふ意有らぬものならば

42

汝若不有奸賊之心者

汝若し奸賊之心有らざるものならば

「もの」と訓読している

如生男者

如し男を生まば

50

則引開之者

則ち引き開けしかば

52

若懷不善而復上來者

若し不善を懷ひて復上來らば

如有清心者

如し有清き心有らば

吾所以更昇來者

吾更に昇來る所以は

54

故尋聲覓往者

故、聲を尋ねて覓ぎ往ししかば

若然者

若し然らば